

**研究主題 児童の意欲を高め、多面的・多角的な見方や考え方を育てる社会科授業の工夫
～小学校における社会科教育の現状と課題をふまえて～**

要約：本研究は小学校社会科において、児童の意欲を高め、多面的・多角的な見方や考え方を育成するための工夫を明らかにしようとしたものである。はじめに、各種調査の分析や児童・教師アンケートから、小学校社会科教育の現状と課題を把握した。そして、資料活用能力を高める工夫や言語活動の充実を意識した授業実践を行った。その結果、児童の学習意欲は向上し、様々な視点や立場から、社会的事象を見たり考えたりすることができるようになった。

キーワード：資料活用能力、言語活動の充実、ウェビング、教材化、アクティブ・ラーニング

I はじめに

小学校社会科は、地域社会や我が国における人々の社会生活を広い視野からとらえ、総合的に理解することを通じて、公民的資質の基礎を養うことを究極的なねらいにしている教科である。

公民的資質とは、平和で民主的な国家・社会の形成者としての自覚をもち、自他の人格を互いに尊重すること、社会的義務や責任を果たそうとすること、社会生活の様々な場面で多面的に考えたり、公正に判断したりする態度や能力のことである。公民的資質の基礎を養うためには、問題解決的な学習過程を通じて、社会的事象を多面的・多角的に考察したり、社会的事象の意味を考えたりする必要がある。

本実践は、社会科教育の方向を見据えたものであり、小学校社会科において育成すべき資質や能力を子どもたちに育むという観点からも意義深いものだと考える。

II 社会科学習における児童や教師の実態

本校5年生に対するアンケート（平成27年4月実施）では、「社会科の学習が好き」と答えた児童は65%だった。また、77%の児童が、社会科は生活に役立つ教科だと答えていて、社会科

学習を肯定的にとらえていることが分かった。一方で、75%の児童が、社会科は暗記教科だと答えている。「社会は教科書の内容だけを覚えればいい」という意見もあった。

加賀市内の3つの小学校教員や加賀市教育会社会科部員に対するアンケートからは、限られた時間の中で先生方が、指導法の改善や教材研究に取り組んでいる姿が窺えた。69%の教師は社会科指導に苦手意識を持っているが、楽しい授業や学力向上に向けて努力していることも分かった。

石川県基礎学力調査（社会）の分析からは、複数の資料を関連付けて考察したり、資料から読み取ったことを基に、適切な言葉で説明したりすることに課題が見られた。問題やテーマを決めて討論したり、多面的・総合的に考えたりする指導が必要であると感じた。

III 研究のねらい

社会科学習において、児童の意欲を高め、多面的・多角的な見方や考え方を育てるためには、資料活用能力の育成、話し合い活動の充実、ウェビングや付箋の活用が有効であることを、実践を通して明らかにする。

IV 研究の視点

本研究では、以下の3つの視点を意識しながら授業実践を行う。

(1) 資料活用能力の育成

資料を正確に読み取ることができなければ、事実を比較したり、考えを深めたりすることは難しい。そこで、「資料の読み取りポイント」を提示したり、穴埋め式のワークシートを使ったりしながら、資料活用能力を高める。

(2) 言語活動の充実

考えたことを自分の言葉で伝えたり、お互いの考えを深めたりするために、ペアやグループでの話し合い活動を行う。また、ウェビングや付箋を生かした学習を取り入れる。

(3) 授業展開の工夫

筆者が取材し教材化した授業を実践する。授業の中では、児童の思考をゆさぶる場面や問い返しの場面を設定する。また、アクティブ・ラーニングを意識した学習を行う。

V 研究の方法

本校第5学年3組の児童を対象に「これからの食料生産とわたしたち」「自動車をつくる工業」「これからの工業生産とわたしたち」の単元で授業実践を行う。そして、抽出した授業の様子や感想、ウェビングやアンケートなどから、児童の変容を分析する。

VI 実際の授業

<実践授業Ⅰ：これからの食料生産とわたしたち>

[資料活用能力の育成]

食べ物の産地調べでは、新聞や広告を使用した。週末の課題として、新聞切り抜き活動を継続していること



や、多様な情報の中から必要な情報を選択したり、情報と情報を比較したりすることで、情報収集力や情報活用力を育成できると考えたからである。

広告に出ていた国や都道府県の位置は、地図帳で確認させた。首都や人口などの基本情報だけでなく、縮尺を使って石川県と産地の距離を調べることもできた。

国別食料自給率を確かめる場面では、「グラフの読み取りポイント」を提示したり、デジタル教科書を使ったりしながら授業を進めた。読み取るポイントが明確になり、苦手意識を持っている子どもでも、自信を持って学習に取り組んだ。

[言語活動の充実]

付箋を使って調べた内容を共有した。全体的な傾向しかなかった児童でも、具体的な数値や根拠とする資料を見つけることができた。



「食料を外国から輸入し続けること」について話し合う場面では、自分の立場を明確にするために名前プレートを使用した。そして、4人程度のグループになり、理由を話したり、キーワードをホワイトボードに書き出したりした。最後に、グループの考えをクラス全体の前で発表した。



理由を話したり、キーワードをホワイトボードに書き出したりした。最後に、グループの考えをクラス全体の前で発表した。

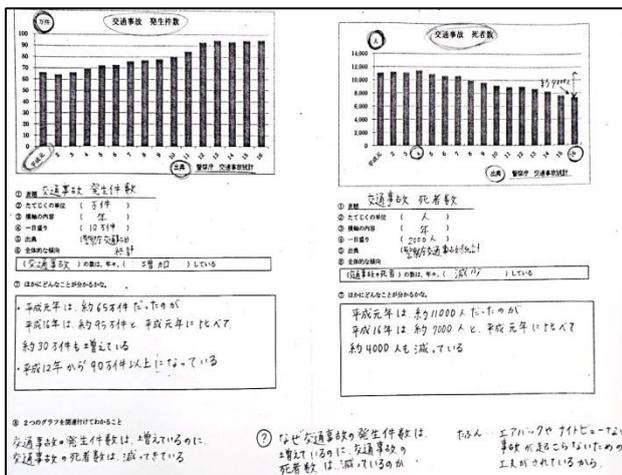
[授業展開の工夫]

栄養教諭をゲストティーチャーとして招き、給食の食材についての特別授業を行った。子どもたちは、国産の食材を使用して給食を作っていることを知った。そして、「広告調べでは、外国産の食べ物が多かった。給食の食材はどうして国産が多いのか？」という疑問を持った。このズレが子どもたちの思考をゆさぶり、学習意欲を高めることになった。

<実践授業Ⅱ：自動車をつくる工業>

[資料活用能力の育成]

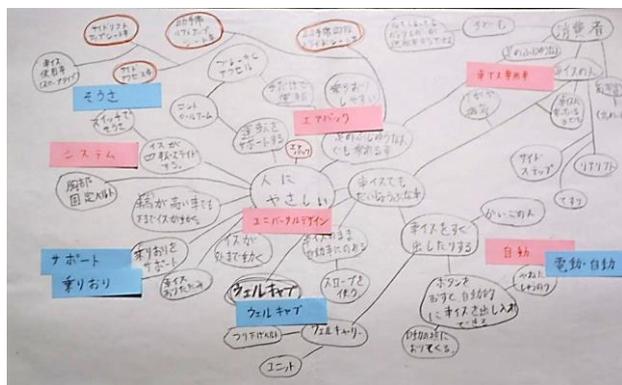
人と環境にやさしい自動車づくりの学習場面では、交通事故の発生件数と交通事故の死者数のワークシート（図1）を使った。児童は、グラフの全体的な傾向を読み取るだけでなく、2つのグラフを関連付けることもできた。読み取った事実を基に、「なぜ、交通事故の発生件数が増えているのに、交通事故の死者数は減っているのか」という疑問を持った。そして、「エアバックやナイトビューなどの工夫があるからだ」と予想した。



<図1：児童が記入したワークシート>

自動車技術の向上だけでなく、道路標識、警察や消防、町の見守り隊などの活動にも目を向けながら、交通事故の死者が減少している理由を考えていた。

[言語活動の充実]



<図2：付箋を付け加えたウェビング>

「安全・安心」「環境にやさしい」「人にやさしい」のグループに分かれて活動する場面では、調べたことをシートに記入し、友達の意見には

赤の付箋，キーワードには青の付箋を貼って考えをまとめた。思考活動と表現活動を繰り返すことで自分の考えを吟味することができた。

[授業展開の工夫]

子どもたちは、デジタル教科書や NHK for SCHOOL の映像を見ることで、自動車の組み立て工程について理解することができた。しかし、自動車づくりの大変さや流れ作業に



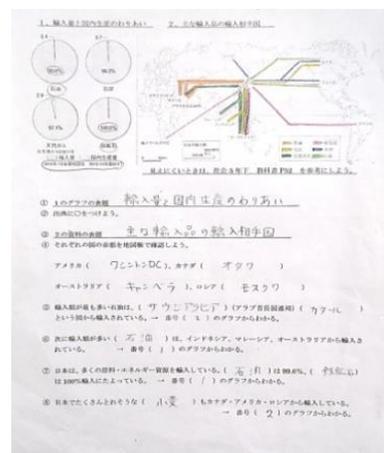
よる効果を実感することは難しかった。そこで、紙を使った自動車づくりを取り入れることにした。より速く、効率的に自動車を作るために、グループで作戦を立てたり、改善策を話し合ったりしていた。また、組み立て工場で働く人の視点だけでなく、販売者や消費者の立場、国際分業や比較生産費説にも通じる視点にも目を向けることができた。

富山県にある「光岡自動車」を教材化し、授業実践を行った。yahoo マップや写真を使って、工場の立地条件や作業工程を比較した。児童は、この活動を通して、大手の自動車工場と中小の自動車工場との共通点や相違点を見いだすことができた。

<実践授業Ⅲ：これからの工業生産とわたしたち>

[資料活用能力の育成]

日本の輸入や輸出の特色を読み取る場面では、穴埋め式と自由記述式のワークシート（図3）を用意した。子どもの実態に応じて、好きな方を使うように指示した。



<図3 穴あき式ワークシート>

